

まちあるき実行委員会は、週に1回お昼休みに実行委員で集まり、毎年2回前期・後期に行われる「まちあるき」を企画しています。「まちあるき」とは、日本各地を訪れて、街並みや建物を見ながら、まちや建物のデザイン、まちづくりの方法を学び、現地の方々のお話を伺うことにより、地域の活性化や、文化・暮らしに触れたり、あるいは人間の活動が環境に与える影響などを学んだりして、今後の勉強に活かすことなどを目的としています。

さて、6月4日(日)に開催された春のまちあるきでは、100人を超える参加者と共に三重県の伊賀市と亀山市を訪れました。伊賀市は伊賀上野城下町として栄え、昔ながらの風情が残る町です。伊賀上野城は築城の名手として名高い宇和島(現在の愛媛県)城主である藤堂高虎が大阪の陣に備えて改築を行なった城で、天守閣内や伊賀流忍者博物館の他にも、松尾芭蕉生誕の地であるため俳聖殿や芭蕉翁記念館などたくさん見どころがあります。

午後からは、亀山市の関宿を訪れました。ここは東海道五十三次の47番目の宿場町として知られていて、古代から交通の要衝で、古代三関の一つ「鈴鹿関」が置かれ、江戸時代には参勤交代や伊勢参りの人々で賑わいました。現在も江戸時代後期から明治時代にかけて建てられた古い町家が200軒あまり残っており、当時の姿を色濃く残しています。この関宿は1984年に国の重要伝統的建造物群保存地区に、また1986年には日本の道百選に選定されました。

今回参加していただいた生徒のみなさんからは、「古い町並みを見学できてよかった」、「楽しかった」、「次回も是非参加したい」という声が聞かれ、満足していただいた様子でした。特に1回生は友達づくりのきっかけにもなったようでした。

また、今回のイベントでは参加者の皆様のスムーズな集合や移動、バスへの乗車などで、当初の予定よりも一時間も早くイベントを終えることができました。また、参加者の皆さまに加えて、バスの運転手さんや、現地の皆様のまちあるきへのご理解・ご協力に実行委員一同心より感謝いたします。

まちあるき実行委員は、先輩後輩の壁がなく、なかよく活動しています。とてもアクティブな人が多く、大学生活はもちろん他のことにおいても学べることが多いです。旅行が好きな方、将来、旅行関係の仕事に就きたい方、また、大学に入って何かしたいけど、何をすべきか分からない方など、ぜひ、まちあるき実行委員の扉をたたいてみてください。よろしくお願いいたします。



<関宿のまちなみ>



<Walking to 伊賀上野城>



<まちの民芸品店にて>



<平成29年度 春のまちあるき集合写真：伊賀上野城にて>